

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立泉が丘中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	201人	社会	201人	数学	200人
	理科	200人	英語	202人		

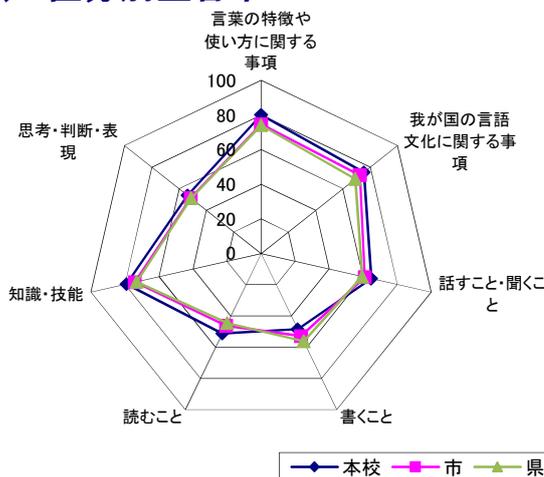
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立泉が丘中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.0	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	75.4	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	64.8	60.9	59.5
	書くこと	48.4	52.8	56.2
	読むこと	51.2	46.2	44.5
観点	知識・技能	79.1	74.2	73.1
	思考・判断・表現	53.9	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

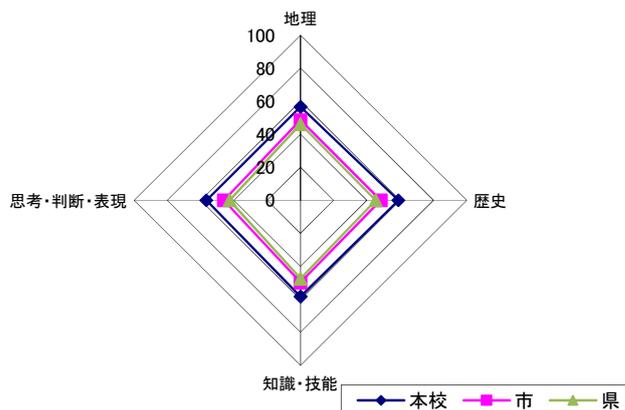
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は80.0%であり、市や県の正答率を上回っている。特に漢字を正しく書いたり読んだりする問いは、全問で市平均を上回る正答率だった。 ●文節の関係を捉える問いや敬語に関する問題は市平均を超えているものの、6割程度の正答率であり、課題がある。	・定期テストにも漢字の読み・書きを出題するなど、基礎・基本の定着に取り組んできたことが成果につながっていると思われる。今後も引き続き、ワークなどを利用して繰り返し定着を図っていく。また、文法や敬語などの言葉に関する知識も、日常の言葉に関連させて指導していくこと。
我が国の言語文化に関する事項	○歴史的仮名遣いや行書に関する問題が出題された。平均正答率は75.4%であり、市や県の正答率を上回っている。	・昨年度は市平均も含めて正答率が低かったが、今年は状況が改善されている。今後も、生徒が古文に親しみを持てるように工夫して授業を展開していく。また、楷書から行書に移行する際、その特徴を詳しく伝えた上で練習に取り組めるよう、書写の時間を充実させていく。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は64.8%であり、市や県の正答率を上回っている。特に「必要に応じて記録しながら話の内容を捉えることができるかどうか」の設問においては、市や県の正答率を6ポイント以上上回っている。 ●「条件に従って話し合いの結論を書く」問題では35%程度の正答率だった。市平均を上回っているものの、低い正答率だった。	・話し合い活動を通して、自分の考えを明確にし、さらに相手に伝えるような話し方を工夫できる力が身に付くよう指導していく。授業でのちょっとしたグループ討議やペア同士のミニディスカッションなど、様々な場面で話し合い活動を取り入れていく。
書くこと	●平均正答率は48.4%であり、市や県の平均を下回っている。全ての設問において市・県平均を下回っており、特に無解答率が軒並み28%を超えている。無解答率も市・県平均を大きく上回っており、この領域だけ顕著に苦手としていることが分かる。	・補助教材のワーク類や単元プリントに出てくる「指定された長さで文章を書く」設問について授業で取り上げ、指定時間で書くことに慣れるような指導をしていく。また、「考えを短時間で整理する」「考えを言語化する」という学習活動を取り入れていく。
読むこと	○平均正答率は51.2%であり、市や県の平均を大きく上回っている。 ●一方で、場面の展開や登場人物の心情の変化について読み取る問題で、正答率11.4%、無解答率が46.3%という問題もあった。正答率は市平均を上回っているが、無解答率も市平均より高い。	・文章を読み取る力については高いと思われるので、説明文を読んで論理的に思考することの大切さを考えたり、小説や物語を読んで場面に応じてどのような表現がされているのかを考えたりするなど、様々な視点をもって読むことを指導していく。

宇都宮市立泉が丘中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	56.6	48.6	46.2
	歴史	59.0	48.3	45.3
観点	知識・技能	58.4	49.8	47.5
	思考・判断・表現	56.5	46.1	42.7



★指導の工夫と改善

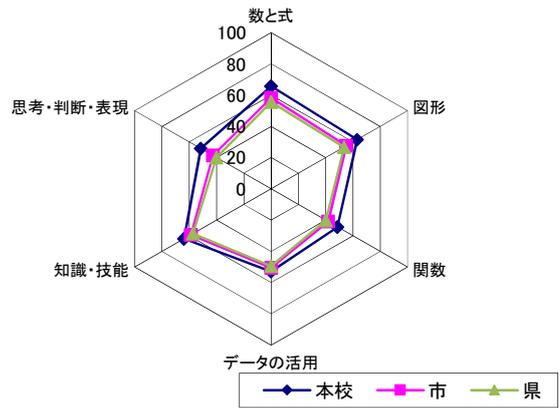
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>○平均正答率が、市平均及び県平均よりも上回っている。</p> <p>○知識・技能に関する問題の正答率が高く、基礎基本が定着していると考えられる。</p> <p>○サンフランシスコの正しい日付・時刻を選ぶ問題では、正答率が79.6%と良好であり、時差の問題の定着が来ている。</p> <p>●地中海性気候が位置する部分を選ぶ問題では、県の平均を上回ったものの正答率が37.3%と理解度がやや低い。</p> <p>●アメリカ合衆国の3つの州の民族の組み合わせを選ぶ問題では県の平均を上回ったものの、正答率が29.9%と理解度が低い。</p>	<p>・「世界のさまざまな気候」では、温帯に属する地中海性気候、西岸海洋性気候、温暖湿潤気候について、雨温図から特徴を読み取らせる。また、地図からどの地域がどの気候帯に属するかを読み取りを増やしていくことで、複数の資料から読み取る技能を高めていく。</p> <p>・「アメリカ合衆国の民族の組み合わせ」については、一つの資料からだけではなく複数の資料を関連付けて読み取りをさせる。また、意見交換等を通してさまざまな考え方や視点があることに気付かせていく。</p>
歴史	<p>○平均正答率が、市平均及び県平均よりも上回っている。</p> <p>○選択式の問題の正答率が高く、基礎基本が定着していると考えられる。</p> <p>○聖武天皇が仏教を尊重した理由を選ぶ問題では、正答率が73.1%と良好であった。</p> <p>●平安時代から鎌倉時代初期の武士に関するできごとについて述べた文を古い順から並び替える問題では、県の平均を上回ったものの、正答率が21.9%と理解度が低い。</p>	<p>・「平安時代から鎌倉初期の武士」については授業の中で資料や歴史地図、年表の読み取りを多く取り入れ、知識・技能を高めていくことで、時代の流れをつかめさせる。</p> <p>・歴史分野でも、一つの資料からだけではなく複数の資料を関連付けて読み取ったり意見交換をしたりして、さまざまな考え方や視点があることに気付かせていく。</p>

宇都宮市立泉が丘中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	65.7	58.2	55.5
	図形	63.1	55.1	53.5
	関数	48.7	41.9	40.2
	データの活用	52.9	50.5	49.4
観点	知識・技能	63.8	58.8	57.3
	思考・判断・表現	51.7	42.7	40.3



★指導の工夫と改善

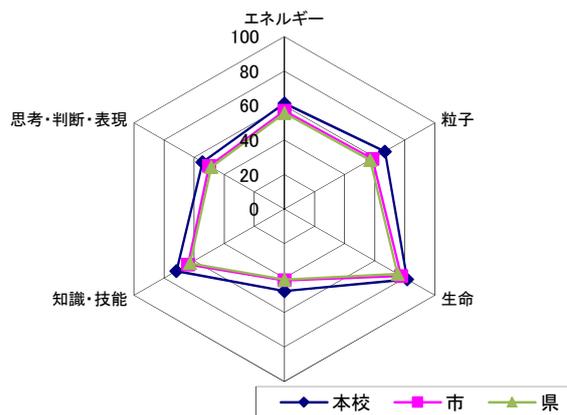
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○正答率は65.7%で、市平均より7.5ポイント、県平均より10.2ポイント上回っている。特に、与えられた問題に対して、適切な1次方程式を立式する問題では、県平均より22.9ポイント高くなっている。</p> <p>●図で示した考え方を式に正しく表せていない人を1人選び、正しい式をかく問題では、正答率は県平均より12.1ポイント高くなっているが、50.5%と他の問題に比べて低い。また無回答率が県平均より1.4ポイント高くなっている。</p>	<p>・正の数・負の数、文字式の計算、1次方程式の基本的な知識や技能の学習内容に関しては定着しているが、苦手としている生徒もいるため、1年生から小テスト形式の練習をさせるなどの活動を取り入れ、基礎基本の定着を図っていく。また、立式を苦手とするため、数量の関係を見出すことや文字を使って表すことなど、かくために必要なことを確認しながら演習を行っていく。</p>
図形	<p>○正答率は63.1%で、市平均より8.0ポイント、県平均より9.6ポイント上回っている。特に、円柱の側面積と求める式について、当てはまる言葉を答える問題では、県平均より17.0ポイント高くなっている。</p> <p>●おうぎ形の弧の長さについて、半径が等しい円の円周の何倍であるかを答える問題では、正答率は県平均より9.9ポイント高くなっているが、50.0%と低い。また無回答率が県平均より1.1ポイント高くなっている。</p>	<p>・平面図形、空間図形の基礎的・基本的な知識や技能の学習内容については定着している。しかし、応用的な内容でその知識を活用できていない生徒もいる。問題を解くために必要な性質や公式など既習事項を確認しながら演習を行っていく。</p>
関数	<p>○正答率は48.7%で、市平均より6.8ポイント、県平均より8.5ポイント上回っている。特に、与えられた考え方をもとに、その式をかく問題では、県平均より13.3ポイント高くなっている。</p> <p>●与えられたグラフをもとに、正しいものを選ぶ問題では、正答率は県平均より2.4ポイント高くなっているが、無回答率が県平均より1.3ポイント高くなっている。</p>	<p>・与えられた表や式からグラフを選ぶことはできるが、グラフからからの読み取りを苦手とする生徒が多い。身近な問題を取り上げ、ともなって変わる2つの数量の変化の様子を丁寧に理解させ、説明できるようにしていく。</p>
データの活用	<p>○正答率は52.9%で、市平均より2.4ポイント、県平均より3.5ポイント上回っている。特に、最頻値と中央値が同じ階級に含まれているヒストグラムを選び、その階級を答える問題では、県平均より7.1ポイント高くなっている。</p> <p>●ヒストグラムの山の形が異なる理由について、当てはまる言葉を答える問題では、正答率は県平均と同じ%で他の問題より低く、無回答率は県平均より1.0ポイント高くなっている。</p>	<p>・資料の整理の単元では、度数分布表、相対度数、累積度数、度数折れ線などの基礎内容が身につけていない生徒がいる。基礎的な問題を多く解き、再確認させる。</p> <p>・データの読み取りや傾向を数学的に説明することは難しく、苦手としている生徒は多い。数値の変化や規則性など丁寧に解説し、問題を多く解くことで理解を深めさせる。</p>

宇都宮市立泉が丘中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	61.4	57.0	55.7
	粒子	66.7	58.6	56.9
	生命	81.5	77.5	75.2
	地球	47.6	41.4	40.9
観点	知識・技能	71.7	64.1	62.8
	思考・判断・表現	54.4	50.1	48.7



★指導の工夫と改善

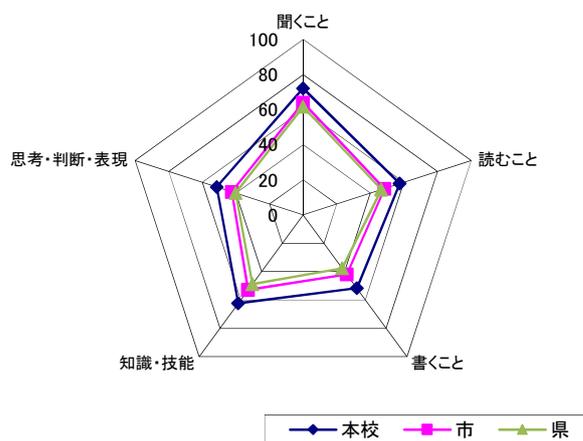
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○平均正答率は市や県を大きく上回っている。特に「実験の結果を正しく考察することができるかどうかをみる。」問題の正答率は90.0%ととても高い値となっている。 ●「鏡に映った像が見える範囲について理解しているかどうかをみる。」問題の正答率が34.5%と低く、市や県の平均よりも低くなっている。	・光の反射の法則を適用した光の道すじを理解したうえで作図をできるようにする必要がある。作図に関する問題を多く解く機会を設定していくようにする。また問題演習だけでなく、実際に鏡や光などを用いて反射の法則を実体験することで深い理解に繋げていく。
粒子	○平均正答率は市や県を大きく上回っている。特に「実験を行うときの危険な行動を理解しているかどうかをみる。」問題の正答率が93.0%ととても高い値となっている。 ●「溶解度の変化について理解しているかどうかをみる。」問題の正答率は38.0%と市や県の平均よりも上回っているが、低い値となっている。	・溶解度について、溶質、溶媒、溶液を問題の中での確に区別して扱うことができるようにする必要がある。その上で、立式をして正しく計算できるようにする必要がある。そのために、難易度を何段階かに設定した問題を用意するなど理解度に応じた問題演習を行わせる。
生命	○平均正答率は市や県を大きく上回っている。特に「根・子葉・葉のスケッチをもとに身近な植物を単子葉類と双子葉類に分類できるかどうかをみる。」問題の正答率は90.0%ととても高い値になっている。 ●「肉食動物と草食動物の頭部のつくりを比較し、つくりと食べるものを結びつけることができるかどうかをみる。」問題の正答率は53.5%とこの領域の問題のなかでは著しく低い正答率となっている。	・基本的な知識を暗記しているから正解できるだけになることのないように、観察実験の実体験をもとにした深い理解を求めるようにしたい。そのためにも、授業の中で観察実験をできるだけ取り入れるようにすることはもちろん、実物を用いた演示なども取り入れていく。
地球	○平均正答率は市や県を大きく上回っている。特に「地震のゆれや震度について理解しているかどうかをみる。」問題の正答率は83.5%ととても高い値となっている。 ●「堆積岩の見分け方と、二酸化炭素の発生方法について理解しているかをみる。」問題の正答率は26.5%ととても低い値となっている。	・火山や岩石に関する分野での正答率に課題が見られるため、標本や写真等のイメージがつくような授業展開とともに、覚える部分を定着させるための小テストや端末を用いた学習などを行っていく。

宇都宮市立泉が丘中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	72.1	64.0	61.6
	読むこと	57.6	48.4	46.6
	書くこと	51.8	42.0	37.8
観点	知識・技能	62.3	52.9	48.9
	思考・判断・表現	51.4	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○正答率が69.6%と、市の平均を7.6ポイント上回っている。問題別では「対話の内容を聞き取り、適切に応答しているものを選ぶ。」が市の正答率を15.6ポイント上回っており、最も差が大きかった。</p> <p>●「英文の概要を聞き取り、適切な写真の順番を選ぶ。」では、市の平均を1.6ポイント下回った。</p>	<p>日ごろの授業の言語活動を概ね英語で行っているため、聞き取る力がついているように感じる。しかしながら、聞き取った情報を元に応答する問題では正答率が下がるため、ただ英語を聞くだけでなく、その英語に対して自分の意見を発信するなど話すことにも力を入れていく。</p>
読むこと	<p>○正答率が74.0%と、市の平均を13.4ポイント上回っている。問題別では「英文から必要な情報を読み取り、適切なイベントを選ぶ。」が市の正答率を11.5ポイント上回っており、最も差が大きかった。</p> <p>●「英文を読んで概要を理解し、英文にふさわしいタイトルを選ぶ。」では、無回答率が1.0%と最も高かった。</p>	<p>今後も教科書を中心として読解を行い、発展内容を既習事項と関連させて出題してみたり、新たに発問を作成したりするなどの工夫をしていく。また、教科書以外の英文にも触れる機会を設けることで、英文を読むことに対して慣れ親しませていく。</p>
書くこと	<p>○正答率が63.6%と、市の平均を10.5ポイント上回っている。問題で物では「空欄にあてはまる語を書く。」が市の正答率を18.9ポイント上回っており、最も差が大きかった。</p> <p>●「外国の生徒の依頼に対して、自分の学校について紹介する。」では、無回答率が34.2%と最も高かった。</p>	<p>「書くこと」についての無回答率が高く、特に決められた話題についてまとまりのある英文を書くことに苦手意識が見られる。間違いを恐れずに英語を書くことができるよう、日ごろから英文を書く活動を増やしていく。</p>

宇都宮市立泉が丘中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の授業の予習をしている。」では県平均よりも大幅に高い。「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強していて『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」の項目では肯定割合が県平均より高く、学習に関して主体的に取り組もうとする意欲や自主的な態度があると言える。

○「家の人と学校でのできごとについて話をしている」「家の人と将来のことについて話すことがある」「家の人と学習について話をしている」「自分は家族の大切な一員だと思う」の項目では、肯定割合が県平均よりも高く、家庭教育をはじめ、安定した家庭環境の様子が伺える。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」では、県平均よりもやや肯定割合が低く人前で発表することに関しては苦手意識もみられるので、発表の機会を増やしたりや雰囲気づくりに努めていく。

○「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で、学校の授業の予習をしている」では、県より肯定割合が高く、計画的に見通しをもった学習習慣が定着しているとみられる。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業や単元の振り返り	毎時間の授業の最後や単元の最後などに「学習目標」に対する振り返りを行う時間を設定し、その授業や単元を理解しているかどうかを確認する。	「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の項目に対して、肯定的回答が70.2%で、市より10.0ポイント、県より11.2ポイント低い結果になっている。指導の共通理解を徹底していく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「家で、学校の授業の復習をしている」の項目に対して、肯定的回答が68.1%で、市より12.6ポイント、県より3.0ポイント下回っている。学習塾へ通う生徒の数が多く影響していると思われる。	部活動がない水曜日を家庭学習の日に設定し、既習の内容を復習させる。	・市で導入しているAI型学習アプリ「e-ライブラリ」で、週ごとに課題となる教科を設定し、毎週集計し、学習面談等での話題にして、復習の習慣化を図る。